

中堂仁三郎氏文書概要

1: 文書群番号	083002
2: 文書群名	中堂仁三郎氏
3: 出所	鍋屋・中堂仁三郎家
4: 家業・役職等	神崎村年寄
5: 地名	摂津国川辺郡神崎村／兵庫県川辺郡神崎村／川辺郡小田村神崎／尼崎市神崎／尼崎市神崎町ほか
6: 行政区分	幕府領／尼崎藩領／兵庫県第11区／下坂部組戸長役場／小田村／尼崎市
7: 歴史	<p>神崎は、西国と京都・奈良とを結ぶ水運の結節点として重要な地であった。近世においても、内陸部村々の年貢米を京都・大阪・江戸へ津出しする地であった。神崎駅は尼崎城下とともに尼崎藩が独自に指定した中国街道の宿駅である。神崎川対岸の西成郡加島村との間に神崎の渡しがあり、神崎から南へは尼崎城下への中国街道、北へは有馬道が分岐していた。</p> <p>近世では元和3年(1617)以降明治に至るまで尼崎藩領で、村高は慶長10年(1605)326石余(別に28石余)、天保5年(1834)には344石余(別に28石余)。天保9(1838)の家数は110軒(別に26軒)、人数は402人(別に112人)であった。水利は西明寺井組に属した。氏神は須佐男神社(近世には牛頭天王社)、寺院は浄土真宗本願寺派瑛光寺・西法寺がある。</p>
8: 伝来	市史編集室時代に調査済みであった本文書群を、昭和58年に中堂仁三郎氏が史料館へ寄託。
9: 史料入手先	中堂仁三郎氏
10: 点数	87点(目録件数70件)
11: 年代	享保14年(1729)～昭和19年(1944)
12: 構造と内容	<p>本文書群は、近世史料が中心で、近代の史料は昭和10年代後半の史料がまとまっている。</p> <p>内容は、①近世村方の史料、②金融関係史料、③昭和期軍事関連史料などがある。</p> <p>①のうち、願書留帳は、神崎の継ぎ立てについて明らかにできる史料として注目される。②は土地の売買証文、質入証文、あるいは借入金証文等がまとまっている。③は在郷軍人会、軍資金献納に関する史料などがある。</p>
13: 関連史料	なし
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	河野未央